

救急統計活用検討会 第3回 ウツタイン統計作業部会 議事要旨

I. 日時

平成21年1月16日(金) 14:00～16:00

II. 会場

全国町村会館 2階 第3会議室

III. 出席者

(構成員)

佐々木構成員、田中構成員、長尾構成員、二宗構成員、平出構成員

(事務局)

総務省消防庁救急企画室

(財)消防科学総合センター

IV. 議題

- (1)ウツタイン統計データ公表について
- (2)ウツタイン統計の教育への活用について
- (3)ウツタイン統計作業部会報告書骨子(案)
- (4)その他

V. 配付資料

資料1 ウツタイン統計調査の公表及び教育への活用について

資料2 心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(公表案)について

資料3 ウツタイン統計作業部会報告書骨子(案)

参考資料 第2回ウツタイン統計作業部会 議事要旨

参考資料 「心肺停止傷病者に対する、バイスタンダーCPR実施の現認とその有効性の検討について
ーバイスタンダーCPRの質の評価と評価表の作成についてー」

VI. 議事要旨

配付資料の確認を行った後、議題について以下の議事が進行された。

1 ウツタイン統計データ公表について

事務局より、ウツタイン統計データの公表(案)について、資料の説明があった。

(1) 「心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(ポイント)」について

ア クリーニングに関するコメントの追加

- 座長
- 「心肺機能停止傷病者の救命率等の状況(ポイント)」に、今回3年分のデータをチェック修正し、中には消防本部に問い合わせ整合したものもあることを入れた方が良いのでは。
- 事務局
- 3カ年分の出し直しも含め、クリーニングしたということをどこかに明文化するような形にしたい。

イ 「一般市民による応急手当」の重要性について

- 委員
- 「一般市民による応急手当」の定義によれば、AEDまで入っている。すると、応急手当の中でAEDが飛び抜けて増えたために良かったものであるのか。
 - 少し解析をさせて頂いたところ、バイスタンダーCPRも増えている。そこがアピール出来ると更に良いのではないか。
- 座長
- 別紙6を見ると、一般市民により除細動が実施された症例が2005年、2006年、2007年と増加するに伴い生存率も増加しており、3年間の間に生存者が10倍になっている。これは、非常にインパクトがある。
 - これは、AEDの効果のみではない。応急手当の普及についても是非ポイントに入れて頂きたい。
 - 「一般市民により目撃されて除細動が実施された件数」についてもグラフにし、除細動を行った中での生存率も上がっていることを補充して頂くと更に良くなると思う。

ウ 「一般市民による応急手当」の解説について

- 委員
- 「一般市民による応急手当」の解説については、「心肺蘇生法及びAED」という表現ではなく、「または」にしてはどうか。
- 事務局
- 可能かどうかも含め、事務局で工夫しようと思う。

エ 「AED」の解説について

- 委員
- AEDの用語解説について、「心室細動や無脈性心室頻拍など」となっているが、正しくは「心室細動か無脈性心室頻拍の不整脈」ではないか、「など」は必要ないと思う。
- 事務局
- 「など」を消す方向で、用語の修正をさせて頂きたいと思う。

オ 「初期心電図波形」の解説について

- 委員
- 「初期心電図波形」の定義について、一般市民がいった時にAEDが入っていないということを条文で入れておいた方が良いのではないか。
 - 「一般市民によるAEDで回復した症例」が含まれないことにより、データが少し変化することや、慎重に扱ってもらいたい旨を記載して頂きたい。

カ 「心肺蘇生は早期実施が有効」について

- 委員
- 「目撃のあった時刻から救急隊員が心肺蘇生を開始した時点までの時間の区分ごとに」という表があるが、この時間帯はバイスタンダーCPRがなかった部分であろうか。
- 事務局
- 救急隊がCPRを開始したのは15分以上経過してからであっても、一般市民が倒れてから速やかに行っているケースもあり得る。

- 恐らく一般市民が早期で行っているということがあるからこそ、1カ月後生存率と社会復帰率を経年変化で見た場合に、15分以上でも値が若干上がって来ているのではないかと推察されるところである。
- 座長 ● そうすると、これで公表してみるということではいかがか。

(2) 都道府県別のデータ公表について

- 座長 ● 都道府県別の扱いについて、部会として、「都道府県別の単純比較は好ましくない」と強く明確に示しても良いのではないかと。
- 余りにひどい報道があれば、マスコミに対し、正しく報道するよう部会として指摘する必要もある。
- 事務局 ● 「まだまだ母集団が少ない」という表現をした場合に、マスコミから「では、何人集まれば良いのか」という問い合わせも来るのではないかと。
- 座長 ● この母集団については、年間10万件全体のことでありと捉えられやすいため、「都道府県別の場合」また「都道府県別の生存者数から見た場合」など、限定して頂きたい。
- 委員 ● 上位トップテンくらいは発表し、他の都道府県もそこに入りたいという気持ちになって頂ければ良いのでは
- 座長 ● 例えば救急隊到着前に元気になった方は入っていないということを考えると、東京では非常にAEDが使用されているにもかかわらず、少し過小評価されている可能性もあるということはある程度考えて頂いた方が良いと思う。
- 「比較」が好ましくないということではなく、「単純比較」は好ましくないということを入れたら頂きたい。

2 ウツタイン統計の教育への活用について

- 委員 ● 教育が必要であるということ、また、どのような機会に実施していくかということがポイントであると思う。
- 救命士の教育の機会、救命士有資格者への継続研修、生涯教育の部分が提示されており、現在、消防側の方々も何を行えばよいのかを考えているところであるため、最も取り込みやすい部分ではないかと思っている。
- 次に、就業前の養成課程が考えられるが、既にカリキュラムが確立されているため、次回、救命士教育のカリキュラムの変更チャンスがあれば、組み込むような形が最も良いのではないかと思っている。
- 形としては、提案頂いた講習資料の内容で十分であると思うが、統計に関しては、救急隊や救命士に対して、どのように解りやすく伝えるのか
- ウツタインの様式に加え、このようなデータが最終的に自分たちの行っている活動のどのようなどに反映されているのかを実感することが出来るのがこの教育に必要であると思っている。
- そのような内容を作ることは簡単ではないが、例えば、この委員会で原案(スライド30枚くらいにまとめた使用例等)を作成し、各地域のMCに提供して地域ごとアレンジして使用出来るよう、骨格のみでも地域に提供できるのであればよいのではないかと。
- やはり、地域MCベースでこのような教育がなされるということが今の段階では重要であると思う。
- また、骨子があることで将来的に養成課程教育の中に組み込む際にも解りやすくなっていくのではないかと思う。
- e-learning の実効性を考えると、本人がどれだけ理解したのかを確認出来ないこと、また、本当に知ってほしい救急隊員や、救助やポンプの方々にも見て頂けるのか分からない内容を e-learning で組み込むことが困難なのではないかと。

- 委員
- 教育資料は、様々な所で様々な作り方をすると、色々なニュアンスが生まれる可能性が出てくるため、例えば、このような委員会の中で、全国统一で配布できるものを1本作る必要があるのではないかな。
- 委員
- 例えば、今後の救命士のテキストに、教育資料としてこのような内容を入れて頂くよう、この委員会から依頼出来る機会があると良い。
 - 更にそれを他のテキストにも移し込んでいけると良いのではないかな。
- 座長
- 様々な機会があるので活用出来るはずであるから、まずはパッケージ(教材)を作ることから始めるということではいかかな。
- 委員
- 1問でもウツタインに関する問題が出ると教えざるを得なくなるので、国家試験委員の方に少し意識して頂ければ、やりやすいのではないかなと思う。
- 座長
- パッケージを作ること、また国家試験等周辺的なことも非常に重要であり、リンクして考えて行かなければならない。
 - そのパックをどのように作るかというところが一番であるが、いかかな。
- 委員
- 1案として、骨子の項目のみを挙げていき、どの程度の内容を含むスライドを作成するのかというところまでこの委員会で提言を作り、作成に関しては、次年度に考えて頂いてはどうか。
 - 内容的には、皆の行っている胸骨圧迫やAEDがこれだけ効果に結びついているということが分かると良いのではないかな。
 - 一般市民に対する指導方法の徹底や一般市民が行っているバイスタンダーCPRの実効性の有無について、現場に行った時に判断が出来るような説明が少しあると良いのではないかな。
 - バイスタンダーCPRに関しては、非常に高い精度を持って行っている所もあれば、そうではない所も多いことは、問題であろう。今後、何らかの定義づけをしていき、定義に従い入力頂くよう全国の消防本部の方にお問い合わせ出来れば。
 - 一般市民にいきなり心肺蘇生をさせると、相当なエラーが発生することを、救急隊員の方が分かった上で口頭指導や一般市民へのCPRの指導を行うことが出来ると良い
 - 救急隊が現場へ行ったときのCPRの質を評価できるための教育が必要である。その基礎研究として、日本全国のデータではないが、比較的教育が整った一部の地域でのデータになる。
- 座長
- パッケージを作る際に、記録統計を取ることにしても、系統立てた教育が必要であることが提言できるかも知れない。
- 委員
- 子供から教育して行くということを国民的運動にしなければならない。高齢者への指導については、自らが傷病者になるということが今日のデータで明らかであり、なかなか効率が上がらないと思われる。
 - 最近、小学校でCPR等の講習を行った際に、CPRを30対2と教えたところ、帰宅後に周りの大人から「それはおまえ違うぞ。15対2だぞ」と修正されたということがあった。幾ら子供を教育したとしても、そういった環境全体を整えて行かなければ正しい知識は広まらないということも分かってきたところである。
- 座長
- A E D と応急手当の啓蒙とリンクして行っていくべきものかも知れない。今後のあり方を考える場合にも非常に重要な点であると思う。
 - 本日、完全に具体的にまとまるまでとはいかないが、今の議論でパッケージを作るために骨組みを作っていくという方向で親委員会に報告する報告書に少し肉づけが出来たと思うが。

3 ウツタイン統計作業部会報告書骨子(案)について

- 座長
- 第2章は実際のウツタイン統計調査データ自身も入ってくるかな。

- 事務局
 - 第2章の最後になるか、あるいは全体の最後になるかは分からないが、ウツタインのデータも今回はこの検討会での議論を得て出したということになるため、資料として入ることを念頭に置いている。
 - 構成について、本日議論頂いた内容も踏まえ、統計データの公表内容の提案という形でデータを引っ張れるところは少し引っ張りながら、書き方は少し工夫し文章を変えていくことになると思う。
- 座長
 - 第2章のタイトルが少し分かりにくい。「公表のあり方」というよりはデータそのものを出すのであるから、「データ集計と公表」とした方が分かりやすいのではないか。
- 委員
 - 「今後の公表内容の提案」については、今後はこれらも行っていききたいと解釈して宜しいか。
- 事務局
 - 足元のウツタイン統計データも今回初めてきれいにしたという段階であり、必ず大丈夫であるという約束はなかなか難しいが、もし変えられる機会があった場合に、このような蓄積がなければ変える事は出来ない。
- 委員
 - 現在行っている研修プランに何か必要なものがあれば、追加しようということと解釈して宜しいか。
- 事務局
 - 基本的には追加するということになるであろうと思う。
- 委員
 - 追加は可能であるから、3番の12番に「その他」を入れてはどうか。
- 事務局
 - なるほど。

4 その他

最後に、事務局より、次回の親会を2月17日に予定している、この部会でまとめた結果を2月17日の親委員会に挙げる旨の計画を報告し、閉会した。

午後3時53分 閉会